

エコニュース さって



第 7 6 号
平成 30 年 9 月 3 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

「エコライフDAY2018」宣言式

報告 : 坂本

5月14日（月）渡辺邦夫幸手市長出席のもと、「エコライフDAY2018」の宣言式が市長応接室で行われました。

「エコライフDAY」運動は、平成17年に始まり、今年で14年目に入りました。毎年県内全市町村が参加して行われるこの運動は、埼玉県環境施策（地球温暖化防止＝温室効果ガス削減）の重要なテーマであります。幸手市でも7月1日（日）～8日（日）にチェックシートへの記入が行われ、回収し県への報告という手順になっています。

2017年の参加者は、6614人と2016年よりも892人多い結果でした。2017年の二酸化炭素の削減量は、5124kgと2016年よりも1116kg多い結果でした。

2018年の目標は、対人口比参加率においては、昨年の対人口比12.68%を上回ること。



宣言式、幸手市長と幸手市民環境ネットのメンバー

また、一人当たりの二酸化炭素の削減量は、昨年の削減量775gを上回ることとしました。

渡辺邦夫幸手市長からも宣言式において熱いメッセージをいただきましたので、紹介いたします。

「エコライフDAY」の取組を通じて多くの方々が地球温暖化問題に対し関心を持ち、日頃より二酸化炭素の排出削減を心がけて頂けることを期待しております。是非とも、参加者一丸となって今年の目標を達成しましょう。」

「エコライフDAY」の運動を幸手市全体に繰り広げ、多くの市民が毎日の生活に関心を持ち、地球温暖化防止にかかわり、後の世代のために良好な環境を提供できればと願っています。

第 12 回 ホウネンエビ観察会

報告：唐澤

5 月 19 日（土）昨夜から降っていた雨も集合時間前にすっかり上がり、爽やかな天気恵まれた。



田んぼのホウネンエビを見つけ、採取している参加者

西公民館に 9 時 30 分の集合には、市内の小学校の運動会と重なり、今年はスタッフ含めて、大人だけ 8 名が参加しました。

9 時 35 分より 10 分間、始めに主催者代表の挨拶・田んぼ迄の交通安全を含めた日程の説明がありました。

今年は、「田んぼの妖精・ホウネンエビと、その仲間」と題し、①ホウネンエビ（無甲目ホウネンエビ科）②カブトエビ（背甲目カブトエビ科）③カイエビ（貝甲目カイエビ科）のカラー写真入りの参考資料が配られました。



ミルソウの中を自由に泳ぐホウネンエビ

9 時 45 分、西公民館出発、出た途端、直ぐに隣の田んぼを覗くと、少し小ぶりでしたが、思いがけない位の大量のホウネンエビが居るのには、驚きました。

毎年お世話になる千塚の菅谷さんの田んぼにも、沢山のホウネンエビ・卵をお腹に抱えた雌・ホウネンエビの子供と思われる小さなクリオネのような、幼虫たちがいっぱい居ました。

参加者の皆さんも、初めてのホウネンエビとの際会に見入ってしまい、暫くは同じ場所から、動かない様子でした。

菅谷さんの田んぼから、西公民館迄の帰り道の田んぼでも、今年は全体的には、やや小さ目でした

が、大量のハウネンエビと出会う事が出来ました。

11 時 30 分、西公民館到着

出発前に用意しておいた、ミルソウやフアーブル顕微鏡・スタンドルーペ等を覗きながら、配布した資料を参考に、「ハウネンエビは甲殻を持たない甲殻類でカブトエビと同じ仲間で、11 対の遊泳脚を持ち、腹を上にして常に脚を動かし、餌はプランクトン等の有機物を含む水中の懸濁物（けんだくぶつ：水中に浮遊し、水に溶けない固体粒子）を口元に集めて摂食している事」



身体が透きとおり、尾が赤いハウネンエビ

在来種（ざいらいしゅ：ある地域に古くから存在する生物種）で、つけた名前の由来は「大量に発生した年は豊作になる」と言う言い伝えや、「受精卵は孵化することなく、土中で卵のまま休眠し冬季の低温に耐えている事」等の説明を聞きながら、参加者はそれぞれの顕微鏡を覗き、初めて出会った妖精に、満足そうでした。ミルソウの中のカブトエビ・ハウネンエビ・クリオネのような妖精たちは、一つの家族のようにも思えました。

参加された皆さんは、それぞれが持ち帰り、子供さん・お孫さんに見せるとのことでした。

毎年、この時期は、姿を観るまでは、心配をさせる、ハウネンエビですが、観た途端に喜びと幸せをくれる生き物です。

来年は運動会と重ならない日程を計画して、喜ぶ子供達の声もききながら、楽しみたいです。

第 159 回腐葉土と野菜づくりの会

報告：澤村

10 月 1 日（日）9 時開始、天気；晴、出席者数；19 名＋会員外 6 名の計 25 名

今回の内容：①幸手社協主催「彩の国ボランティア体験プログラム事業」へ参加、②今年、腐葉土第一基作製、③楽しみのサツマイモ収穫

昨年度、当会の「彩の国ボランティア体験プログラム事業」への参加が好評でしたので今年度も参画することにして、参加募集しましたら、社協事務局と 2 名の中学生（2 年生、1 年生）が参加しました。冒頭に腐葉土の環境への意義、適切な木の葉、作製方法を説明して、落ち葉収集と仕込み、サツマイモ収穫を体験して貰いました。



ボランティア中学生と落ち葉集め



サツマイモ 今年も大収穫だぞ！

10月初めはサクラの落ち葉が主体ですが、環境課に集めて頂いた落ち葉、これと会員が集めた落ち葉、落ち始めたケヤキの落ち葉を中学生に集めて貰い第一基腐葉土作製を行いました。その後、全員が畑に移動して、サツマイモのつる切り、スコップ、クワ、移植コテなどを使ってサツマイモ掘りを行いました。今年も、堆肥に熟成腐葉土と鶏ふんの散布、ベニアズマ苗500本の水平植え植付けと直後の数日間の水遣り、3回のつる返し、8月米ぬか散布（イモが甘くなる）行った結果、中から大サイズのイモが主で、お世話になった方への謝礼分含めて一人当たり10kg以上とかなりの収穫でした。ただ、反省として、米ぬかをつるが覆う状態で散布したら、米ぬかの腐植・発酵時の熱で根元のイモつるの変色・枯れが起ったので、次年度には散布時期を早めに行いたいと思います。

なお、ボランティア体験で参加した中学生の感想は、環境について勉強でき、サツマイモ掘りは大変楽しく、できれば来年度も参加したいとの大変な好評

でしたので、このボランティア体験プログラムへの参画が有意義であったと自画自賛してしまいました。

【会員募集中！】環境保全活動と一緒にやっていただく方を募集しております。是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕★問い合わせ先；久保田 修（代表）まで TEL 0480-42-1264

幸手の環境活動グループ：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会（いきがい大学伊奈学園20期）